



フランス原子力・代替エネルギー庁（CEA）
民生施設解体・廃止措置本部（DDCC）
調査・国際協力連携課長
クリスティーヌ・ジョルジュ

仏国ナンシーの高等化学産業学院（グランドゼコール）卒
米国コネチカット大学で 1983 年に修士号取得。

ジョルジュ氏はフランスの原子燃料サイクルバックエンドにおける主要投資案件に関わってきた。ラ・アークでは UP3 再処理工場プルトニウム処理施設のプロセス・エンジニア、メロックスの MOX 燃料成型加工工場では廃棄物管理プロジェクトの副長、マルクールでは廃液処理及び UP1 再処理工場廃止措置の準備等、様々な投資案件のプロジェクトマネジャーを歴任。

1999 年には、UP1 再処理工場解体事業の初代プログラムマネージャーとなる。

TNI の部長として、フランス国内外の MOX 燃料及びプルトニウム輸送に従事し、短期間廃炉部門を離れた後、2010 年には CEA の五か所のサイト（マルクール研究所、カダラッシュ研究所、グルノーブル研究所、サクレー研究所、フォントゥネ・オ・ローズ研究所）で展開される D&D 部関連プロジェクトを推進するため、原子力開発局に入る。

その後 D&D、並びにその関連廃棄物の研究開発計画の責任者となり、現在新たに創設された民生施設解体・廃止措置本部に勤務し、国際展開及び連携を担っている。

同氏はフランスの D&D 分野の第一人者であるとともに、CEA の代表として、OECD/NEA の廃止措置協力計画の管理委員会の副委員長も務めている。